

## ぼくと「おばあちゃん」

小学二年 春田 ゆう

おばんが近づいてきたので、かぞくみんなでおはかまいりに行くことになりました。

おはかへ行くまえに、「せんざまをおいのつじでひらいため、おてらに立ちよりました。おてらでせんざましょに、ぼくはせんざまに立っていました。おきよつをとなえてもらいました。そしてさく、「い」といをして、つわこおきよつをとなえてもらいました。そしてさく、「い」とおぼつかまのお話を聞きました。

ぼくのかよう学校には、ぶつ教を教えてくれるしゅう教の時間や行いがあります。

おてらで聞いたお話を学校と同じでした。「せんざまは、ぼくが生まれる前になくなつたかぞくの人たちのことだ、そのなくなつたかぞくの人たちがいたから、今のぼくがいる」とがわかりました。

お母さんから、ぼくが生まれた時に、ひいおばあちゃんが生きていて、ぼくをとてもかわいがつてくれたことを聞きました。ざんねんなことに、そのひいおばあちゃんはぼくが六か月の時に亡くなったのでおぼえています。

でも、なくなつたひいおばあちゃんが、「せんざまになつて、ず

「とぼくやかぞくを見まもつてくれているみたいですね。そのおかげで、まい田元気に明るくす」「せいでいるんだなあと考えたらうれしくなりました。

おてらでのおいのりの後、すぐ近くにある「せんぞくたちのおはかく、お花とお水とせんじうをもつておまいりに行きました。

おはかがとてもあつくなっていたので、少しでもすずしいと思ってほしくて、たくさんたくさんお水をかけました。

「よろこびでくれたかな。」

ずっとじつしょ、ぼくといちばんやさま。

「ありがとう、また来るね。」

そう、おはかにおいのりをして、心と体をぽかぽかにしてかえりました。